



陵雲だより

学び合う子供の育成～道徳性を養いながら～



82日間の2学期がスタート！

旭川市立陵雲小学校

校長 佐藤 聖士

<始業式>

8月26日(火)朝、校舎に子どもたちの歓声が戻ってきました。延べ5か月82日間にわたる2学期がスタートしました。式開始5分前から、全ての学級が整然と体育館に入場。整列した様子の美しさが増しました。代表児童のあいさつや、夏休みの思い出と2学期頑張ることの発表も、聞き手を意識した大変立派なものでした。式が終了し3分間で体育館からの退場が完了。粛々と教室へ戻る姿からは、一人一人も学級も、大きく成長していることを実感しました。

<始業式で伝えたこと>

1学期の終業式で、夏休み中に特に意識して取り組んでほしいと伝えたことは、

- ① 自分の生命は自分で守ること
- ② 早寝・早起き・朝ご飯
- ③ 家の手伝い+運動や読書等の頑張り の3点。

これらのことは、2学期も継続して取り組んでほしいことであり、今日の自分より、2学期終業式の自分が、確実に成長しているよう、努力を続けてほしいことを話しました。その上で「自分だけでなく仲間も頑張っており、その頑張りに気が付いたら、言葉に出して伝えよう！仲間を励ました言葉は、いつか自分に戻ってきます。」と伝えました。

言葉を大切にすることは、自分も仲間も大切にすること。2学期のスタートに、みんなが安全で尊重される陵雲小学校をつくっていかうとする全校の思いが、壇上に伝わってくるようでした。

<命を守る 防災の日>

今年も暑い夏になりましたが、全国に目を向けると凄まじい酷暑や暴風雨が報じられ、甚大な被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。旭川市は“川のまち”と言われますが、歴史を紐解けば、永きに渡る闘いともいえるべき治水の営みがあって、現在の暮らしと安全が保たれているのだと考えます。

9月1日は「防災の日」です。大正12(1923)年、相模湾北西部を震源として、マグニチュード7.9と推定される関東大震災から102年がたちました。“まさか”は“いつも”の中にあります。そのまさかに備え、子どもたちの命と安全を守るのが学校の責務です。

今年は例年以上にヒグマの出没が懸念されます。自然災害のみならず、身の回りの様々な危険への対策等について、今後とも御理解・御協力の程、宜しくお願い申し上げます。

プール開設期間が無事終了しました！

6月から本校のプールを開設し、全学年で水泳の授業を行いました。さらに夏休み中も開放し、たくさんの子供たちが笑顔いっぱいに水しぶきをあげながら、楽しいひとときを過ごすことができました。

プールの開設には、水質管理や監視といった大切なお仕事を担ってくださる方々の御協力が欠かせません。今年度も、朝夕の水質管理を広瀬さんに、また夏休み中の管理や監視を岡音さんにお世話になりました。お二人の温かい御尽力のおかげで、子供たちは安全に、そして安心してプールを利用することができました。心より感謝申し上げます。

なお、夏休みのプール開放は、管理を担ってくださる方がいなければ実施することができません。（市内には夏休みの開放を行っていない学校もあります。）次年度以降、御協力いただける方がいらっしゃいましたら、ぜひ教頭までお知らせください。（謝礼として、1時間あたり1,010円をお支払いしております。）

地域の皆様に支えられて、子供たちの大切な夏の思い出がまた一つ増えました。改めて深く感謝申し上げます。



花も子どもももにっこり、地域の温かな応援

陵雲小学校の南側に面したバス通りには、いつも私たちの目を楽しませてくれる素敵な花壇があります。この花壇は、末広中央第一町内会の皆様が丹精込めて植えてくださっているものです。昨年度からはコキアにかわいらしい目がつけられ、子供たちの笑顔を引き出してくれました。今年度はさらに「おはよう」というメッセージが添えられ、登校する子供たちを温かく迎えてくれています。

地域の皆様のこうした温かいお気持ち、子供たちの安心や励ましにつながっています。心より感謝申し上げます。学校の前をお通りの際には、ぜひ御覧いただき、地域の皆様の思いを感じ取っていただければと思います。

